

はじめに 学びっぱなしじゃもったいないと思いませんか？

「学ぶって、すばらしい！」

・・・そう、心から思います。

私は、大まじめに、

「人は、死ぬまで「学び」続けるべきだ！」

・・・そんな風に思っています。

社会に出て、忙がしきにかまけてしまうとつい忘れてしまいましたが、結局、「生きがい」とか「やりがい」って、

「自分が成長している！」

と、実感できるときに得られるものなのだと思います。その結果、  
「誰かのお役に立てた！」

と、感じられるなら最高です。例えば、いくら英会話の勉強をしても、使う機会がなければ味気ないでしょうが、

「職場で、外国からのお客様は自分が応対を任されるようになった」

ということになれば、英会話の勉強にますます力が入るでしょう。他に、

「ホームページの作成方法を修得したら、地元のお店街のホームページを頼まれた」

「会計士になったら、学校から子ども金の教育の授業を頼まれた」

・・・なんていう人が、私の周りにもいます。こうなると、

「勉強して良かった！」

と、心から思えるでしょう。皆さん、本当に生き生きしていらっしやいます。

だから、社会人になっても、決して学び続けることをやめないで欲しいのです。

そして、学んだら、ぜひそれを使って、誰かを助けてあげて欲しいのです。世の中のお役に立って欲しいのです。

「ちょっと待ってくれ！ 学ぶことはできるが、人を助ける機会なんてないぞ」

確かに、学び方のノウハウはたくさん見かけますが、それを活かすノウハウって、ほとんど知られてきませんでした。

そこで、私たちの体験とノウハウを活かしてもらえないかと思い、この本を書きました。

私たちは、「週末起業フォーラム」というところで、「自分のビジネスを立ち上げたい」と考える人々に、ネタの出し方から、商売の仕方などを指南しています。

考えてみれば、商売って、突き詰めれば、人のお役に立って、「ありがとう」って言われて、お金をいただくことなんです。

だから、我々が「週末起業フォーラム」で研究してきたやり方は、あなたが、学んだことで人のお役に立つ機会を得るのに使えるのでないか？ そんな風に思ったのです。

そして、もし、あなたが、実際に誰かのお役に立つことができたなら、その時にはご褒美があります。それが、本書のタイトルにもある

「稼ぎ」

・・・です。感謝の気持ちは、必ずお金になって帰ってきます。

成功のノウハウが世の中には溢れていますが、それらの本質も、突き詰めれば、

「誰かのお役に立つこと」

です。あなたなら、そのことにもう気づいているはずですよ。

そして、その結果が、「お金」になって返ってくるというわけです。

それとは全く別の話として、目の前に切実な問題もあります。それは・・・

「サラリーマン、いつまでも、今のままでいられる保証はない」

ということですよ。成果主義が一般的になり、個人の実力が問われるようになっていきます。悪くすれば、リストラという形で会社から引導を渡されます。会社が倒産してしまう可能性すらあります。

最近失業率も改善しているようですが、終身雇用制度は、完全に崩壊しましたから、またいつ自分の身に降りかかるかわかりません。そうなれば、家族もろとも路頭に迷って

しまいます。

追い打ちをかけるように、国も厳しい仕打ちをしています。年金をはじめとする社会保障の先行きはまるで不透明ですし、「サラリーマン大増税」もいよいよ避けられそうにありません。国も、サラリーマンを露骨に狙い打ちし始めているのです。

また、現在、労使紛争のルールを定める労働契約法の制定が検討（平成17年10月現在）されています。現行の案のまま導入されれば、会社は解雇の問題をお金で決着できるようになり、ますます従業員の解雇がしやすくなります。

これに対して、サラリーマンも自己防衛を始めています。その一つが“学び”です。勤めている会社も、国すらも信用できない時代にあつて、決して裏切らないもの、それは“自分”の能力です。そのことに気がつき、行動し始める人が増えているのです。

結果、世の中は空前のスキルアップブームの様相をていしてきました。書店に行けば、資格や英会話など、ビジネスパーソンのスキルアップに関連する書籍が溢れています。ビ

ビジネスマンのスキルアップの講座が次々に開設され、「脳を鍛える」という触れ込みのツールが氾濫しています。インターネットの世界でも、ビジネスパーソンの自己啓発を促す商材が大人気です。

問題意識の高い方は、すでに忙しい中、こうした書籍や講座、ツールなどでせっせとスキルアップをしています。

中には、すっかり自信を持ち、

「自分は、何もしていない他のやつらとは違う。いざというときの備えはできている」

そんな風に考え始める人もいるみたいです。イソップ物語の「アリとキリギリス」のお話のアリになった気分なのかも知れません。

でも、ちょっと待ってください。本当にそうでしょうか？ 勉強した人は、勉強していない人にくらべて、本当に備えができていて、将来安泰なのでしょう吗？

いくら勉強したところで、それだけでは、「何もしていない人」と同じではないでしょうか？ その証拠に、いくら勉強したところで、

「お金の面では相変わらず会社に頼らざるを得ない」

そういう人が多いのではないのでしょうか？

だから、

・どんなに不本意な処遇が下されても、会社に辞表を叩きつけることなどできないのではないのでしょうか？

・いきなり解雇を言い渡されたら、仕事探しのために、ハローワークで長蛇の列に並ばなくてはならないのではないのでしょうか？

・朝のニュースで会社が倒産したのを知らされたら、日頃ギリギリのような生活をして勉強しない人たちと一緒に、アタフタせざるを得ないのではないのでしょうか？

だとしたら、どんなに勉強していることを誇っても、置かれている状況は「何もしていない人」と同じではないのでしょうか？ むしろ、勉強したばかりに、職場で、

・ 理屈ばかりの使いにくいヤツになっている

・ 飲み会に参加せず、同僚から浮いた存在になっている

・ 「仕事そっちのけで、無駄な勉強ばかりする。勉強オタク」と陰口をたたかれている

・ 「平日は仕事、休日は勉強、家庭はどうするの?」「道楽に無駄遣いして! そんなヒマがあるならどこかで稼いできて!」と、家族に責められている

・・・としたら、いっそ勉強などせずに、お金と時間を目先の快樂のためにつき込んで、キリギリスのように、わが世の春を謳歌している人たちが、よほどましかも知れませんか・・・

「お前なんか何がわかる!」

そう、お叱りを受けるかも知れません。ごもつともです。でも、私にはわかるんです。なぜなら、ここで挙げた勉強オタクとは、数年前の私自身の姿だからです。

私もサラリーマン時代、勉強ばかりしていました。資格を取得し、英会話の学校に通い、



いち早くパソコンを買い込んで、ITのスキルも身につけました。ビジネス書も年間300冊ペースで読み漁りました。MBA留学を目指して、学校に通い、さまざまな勉強会や異業種交流会にせっせと顔を出し、社外の人脈をせっせと作りました。

そして、自分自身を

「できるビジネスマン！」

と、大まじめに考えていました！

今、思えば、相当恥ずかしい錯覚です。

しかし、そんな自分の自尊心とは裏腹に、会社からの評価は低く、会社が減俸やリストラを断行すれば、真っ先に対象になる存在でした。実際、会社から理不尽な処遇を受け、家族につらい思いをさせ、危機に陥らせる経験すらしました。

では、その時「勉強オタク」の勉強は、最強のツールになって、私を助けてくれたでしょうか？

答えはNO！ です。

・・・まるで役立ちませんでした。

結局、辞表を叩きつけるどころか、上司に意見することすらできず、会社の言いなりになることしかできませんでした。

だから、ここで、声を大にして、あなたに言いたいのです。それは、学んだだけじゃ、

「ハイ、それま〜で〜よ〜」

ということですよ。勉強そのものは「それ以上でも、以下でもない」のです。

要するに、「+a」（プラスアルファ）がないとダメなのです。

では、+aってなんでしょう？

それは、「稼ぐ力」です。

私は、会社から理不尽な扱いを受けて、死にもものぐるいで考えました。「こんなに勉強してきたのに、一体なぜ？」

・・そして、至った結論、それは当たり前のことでした。すなわち、「いくら学んだって、それが稼ぎを生まなければ何の意味もない」ということです。学びが稼ぎを生んでいなければ、

- ・会社に対して自分の信念を貫く武器にもならない
- ・いざというときに家族を守る武器にもならない
- ・誰かのお役に立って「ありがとう」と言われることもない
- ・自分の夢を実現するための武器にもならない

そんな、当たり前前の真実です。

「趣味」「暇つぶし」「癒し」のために学ぶならいいでしょう。

しかし、いやしくも「学び」を、

「自己投資」

と位置づけ、家族、自分自身、そしてお財布を納得させてきたなら、

自分が学ぶのは、

「家族を守るためだ」

「自己防衛の手段なのだ」

「将来のための自己投資なのだ」

とか、少しでも言ってしまったことがあるなら、その学びが、「稼ぎ」を生み出さなくてはお話になりません。

世の中には、かつての私を筆頭に、

・勉強オタク・

・スキルアップ星人・

みたいな人がたくさんいます。いつまでも勉強ばかりしているのです。そういう人ほど、「自分は自己投資をしているデキルヤツ」と、恥ずかしすぎる錯覚しています。

でも、投資なら、リターンがなければウソですよ。はっきり言えば、身もフタもありませんが、ビジネスパーソンの勉強は、稼いでナンボなのです。

「偉そうに！ お前は一体どうだったんだ！」

・・・ごもつともです。

では、ここで少々私の自己紹介をしましょう。私は、32歳の時に、会社からのつらい処遇をきっかけに、「いくら学んでも、それが稼ぎを生まなければ何の意味もない」ということに気がつき、目からウロコが取れました。

それから、生まれ変わりました。自分の学んできたことをネタにしたビジネスで収入を得ようと孤軍奮闘し、失敗したりだまされたりしながらも、何とか自分が学んだことを活かして、ビジネスを始めました。

具体的には、経営コンサルタントという仕事です。サラリーマンをやりながら、中小企

業のコンサルティングや、起業家の支援、講演会、雑誌や書籍などの著述、勉強会の主催などのビジネスを手がけ、軌道に乗せることができました。

2年とちよつとで、給与以外のビジネスからの副収入が、年間600万円までになりました。今どき自慢できるような金額ではないかも知れません。でも、リストラされぞこないのサラリーマンが、会社を辞めずに、給与と同額を得たことを考えれば、「まあまあ」ではないでしょうか？ 男性サラリーマンの平均所得が年550万円前後と言われているから、悪くない稼ぎだと思います。

そして、その収入をよりどころに、独立の夢を果たして4年、今では日本橋に事務所を構え、複数のスタッフを雇う余裕もできました。スーツを着ることもなく、気が向いた仕事だけを気が向いたときに、気の合う人とだけする、自由な生活になりました。

本書では、その体験に基づいて、学びを稼ぎに変える、具体的な方法を解説します。

本書は、2部構成になっています。第1部では、サラリーマンの学びの実情などをご説明しつつ、自分の体験を暴露、あなたにも役立ちそうなエピソードを紹介していきます。単なる私の自叙伝でなく、それをベースに、あなたが実践し成果に結びつけられることを中心に紹介していきます。

第2部では、「週末起業フォーラム」のチーフコンサルタント森英樹が、日頃、起業家を指導する中で築いた、「学びを稼ぎ」に変えるための具体的なノウハウを語ります。

ここでご紹介することを実践すれば、あなたがこれまで一所懸命「学んできたこと」、または「これから学ぶこと」を使って、あなたの家計を支えるのに十分な収入を生み出す仕組みが作れるはずです。そうすれば、時代がどのように変化しても、あなたは、

- ・あなた自身と、あなたの家族を守ることができる
- ・会社への依存を断ち切ることができる
- ・世の中の役に立ち、人から感謝される

・自分自身をさらに成長させることができる

そして、

・夢を現実のものにできる

・・・はずです。

「会社を辞めるか否か」は、あなた自身が決められるようになります。

さあ、それでは、さっそく「あなたが耕してきた脳みそを使って、世の中のお役に立ち、さらにご褒美までいただく」、ウキウキわくわくするような暮らしを目指して、レッスンを始めましょう！

週末起業フォーラム代表 藤井孝一